

安保破棄ニュース

NO. 574 2025・3・15

安保破棄・諸要求貫徹大阪実行委員会

〒543-0016 大阪市天王寺区餌差町9-6 2階
TEL 06-6763-3833 FAX 06-6763-3836
HP <http://www.anpo-osk.jp>
E-mail anpo-osk@abeam.ocn.ne.jp

近畿安保・自衛隊基地視察行動・第4回「神戸港・六甲山」報告



公然と進められている大軍拡の実態

今年は戦後・被爆80年ですが、もう一つ、1975年の「非核『神戸方式』」決議から50年です。2月16日(日)、近畿安保では近畿圏の自衛隊基地視察行動の第4回目として、神戸港と六甲山頂を訪れました。

米軍に接收された神戸港・六甲山頂

戦後、神戸港と六甲山頂は米軍によって全面接收され、朝鮮戦争、ベトナム戦争では米軍の重要な補給・休養基地として使われ、麻薬や武器の暴力団への横流し、米兵による発砲事件、買春、市民への暴行が横行するなどしたため、米軍基地撤去、平和の神戸港づくりを求める市民の闘いが粘り強く展開され、1973年には「一切の軍事基地と軍事使用に反対し、国際親善と協力で世界に開かれた神戸市を実現する」と公約した革新市政が誕生。

神戸港の全面返還と「非核『神戸方式』」の実施

ついに1974年に神戸港が全面返還されます。

1974年10月には、「日本の港に寄港する米艦隊は、積載している核兵器を降ろしていない」とラロック元提督が米議会で発言したことなどもあり、1975年3月に神戸市議会が全会一致で「核兵器積載艦艇の神戸港入港拒否に関する決議」を採択したことを受けて、入港しようとする船に「非核証明書」の提出を求める「非核『神戸方式』」が実施され、今年で50年となります。

1975年の決議後、神戸港以外の一般港には米

軍艦が65港に892回も入港(大阪港には16回)していますが、神戸港には、ただの一度も入港させていません。

そればかりか、核兵器禁止条約第1条「禁止」にも反映され、韓国では、韓国最大で、米軍の拠点となっている釜山港において、「非核『神戸方式』」を実施する運動が始まっています。

今、神戸港には海自の阪神基地が

今、神戸港には海自の阪神基地があり、隣接して大軍需企業の三菱重工業、川崎重工業、新明和工業の工場や造船所があります。

自衛隊の潜水艦は、すべて三菱重工業と川崎重工業の2社だけが製造していますが、この日も神戸港では、両社が建造中の最新鋭艦を含む8隻の潜水艦を確認することができ、「もし、非核『神戸方式』がなかったら、今ごろどんなことになっていただろう」と思うと、背筋が寒くなり、改めて、大阪港に米軍艦が入港してくること許さず、絶対に「特定利用港湾」にさせてはならないと思わずにはおれませんでした。

六甲山頂の自衛隊通信基地

この日私たちは、1992年11月にようやく米軍の通信施設が置かれていた六甲山頂が返還され、その後建てられた自衛隊通信基地も訪れました。この山小屋風の綺麗な建物は、他の山によくあるテレビ塔がここにもあるとしか思えません。

しかし、説明を聞くと、建物には一つも窓がなく、周囲に設置された金網の柵には電気セン



最新鋭の潜水艦「ちょうげい」(左)「らいげい」(右)

サーが張り巡らされ、上部には天を切り裂く矢じりと刃物を取り付けられ、その内側にレーザーセンサー、さらに入出口には電子ロックキー、そしてよく見ると、室内に二酸化炭素を充満させる装置が設置されているなど、実は、尋常ではなく重要な軍事施設だということが分かります。

このように、教えてもらわなければ、誰も知らない間に、密かに、しかし公然と進められている大軍拡の実態を、しっかりと市民に伝えていくことが、いま、私たち安保破棄実行委員会には求められているのだと、痛感する視察行動となりました。



六甲山頂の通信基地



金網の上に天を衝く槍先



恐ろしい警告

<学習資料>

軍需産業と政権の癒着

「裏金」問題の幕引きは許さない！と、2月23日に寝屋川市で、大阪12区市民連合と寝屋川革新懇の共催による上脇博之さんと清水ただしさんのビッグ対談が開催されました。

パーティー券裏金疑惑の徹底解明に向けて、決して忘れず、決して諦めずに追及しようというお話がされたわけですが、憲法学者である上脇先生が、なぜこれ程までに頑張っておられるのかという問いかけに、次のようなお話をされました。

裏金幕引きを許さないたたかいは 議会制民主主義実現の運動

それは、「議会制民主主義は、議会(国会)を「民意の縮図」にするなど、限りなく直接民主主義に近いものでなければならない」「議会制民主主義になっていなければ、政権は民意とは正反対の政治が簡単に強行でき、暴走できてしまう」「政権の暴走を阻止するためには、従来の市民運動に加えて、国民の抵抗運動が必要だ」「こうした運動は、日本国憲法が採用している議会制民主主義の実現に向けた運動の一部である」という趣旨でした。

先月のニュースでも少し触れましたが、大軍拡路線が強行される中で、軍需産業と政権との癒着が進行している実態についてもう少し紹介しながら、私たちも、議会制民主主義の実現に向けての運動に加わりたいと思います。

大軍拡予算 - 武器・弾薬経費急増

2022年12月に「安保3文書」が閣議決定されて以降、防衛省予算はわずか3年間で約3兆3000億円も増え、1.6倍に膨れ上がり、2025年度予算案では8兆7005億円。その中でも、物件費、主に装備品＝武器・弾薬に係る歳出化経費が急増しています。

2023年度の防衛省中央調達契約の実績を見ると、総額で2022年度の1兆7208億円から2023

順位	契約額(億円)	献金額(万円)
①三菱重工	1兆6803	3300
②川崎重工	3886	300
③日本電気	2954	1800
④三菱電気	2685	2000
⑤富士通	2096	1800
⑦IHI	1257	1000
⑧日立製作所	793	3500
⑨伊藤忠アビエーション	643	*2800
⑫SUBARU	466	1700
⑮住商エアロシステム	264	**2800
⑲小松製作所	240	800
⑳三菱商事	227	2800

防衛省・中央調達上位20社のうち、自民党への献金を行った企業

*は伊藤忠商事、**は住友商事の献金額
(いずれも2023年度分)

年度には5兆5737億円へと3.24倍に膨れ上がり、中でも、三菱重工の契約額1兆6803億円は前年度(3652億円)の実に4.6倍となり、契約全体の30.1%を占めています。

これは、憲法違反の「敵基地攻撃能力」の保持、国連憲章・国際法違反の先制攻撃につながる長射程の12式地对艦誘導弾など「スタンド・オフ・ミサイル」に係る契約を一手に引き受けたことによるものです。

しかし、他の軍需企業についても、「安保3文書」に軍需産業は「防衛力そのもの」と位置付けられ、防衛生産基盤強化法の実施によって国が至れり尽くせりの援助を行うことによって、一気に活気づいています。

軍需産業と政権の癒着

その結果、防衛省中央調達上位10社の内、2022年には5社だった経団連の役員企業が2024年には7社となり、財界での発言力を強め、自民党への献金総額は2億4600万円にも上り、国家公務員からの天下りは189件を超えています。

また、高性能兵器の製造に欠かすことのできない、半導体の企業ラピダスへの2兆円を超える異常な資金援助と、そのラピダスを共同出資して設立した、トヨタ自動車やNTTなど8社から、自民党へ4億10

40万円もの献金がされていることも見逃すことはできません。

■ラピダス出資企業の献金 (2021~23年)

トヨタ自動車	1億5000万円
NTT	6200万円※
ソニーグループ	5500万円
NEC	5100万円
デンソー	3240万円
三菱UFJ銀行	6000万円
計	4億1040万円

《注》国民政治協会の政治資金収支報告書で作成。※NTTはグループ3社の合計

実態を広く知らせ 「民意」が反映される政治実現へ

私たち安保破棄実行委員会には、自民党政治の大きな歪みである「アメリカ言いなり」「大企業優遇」が、このような構図の中で自民党に流れている企業・団体献金によってつくり、「裏金」が議会制民主主義を破壊している実態を、決して忘れず、決して諦めることなく市民の皆さんに広く伝え、国民の「民意」が反映される政治を、実現するために努めることが今こそ求められています。 (守山禎三)

「私たちの生活に近づく戦争を考えるつどい」

熊野白浜リゾート空港が「特定利用空港」指定へ!

安保NO!
和歌山県民会議
緊急学習会

2月17日(月)、安保NO!和歌山県民会議が開催された「緊急学習会」にオンラインで参加しました。

この学習会は、和歌山県が防衛省から昨年暮れの12月24日に依頼を受け、南紀白浜空港を「特定利用港湾」に指定することを、なんと、年末年始を挟んだ1月8日には受け入れに合意したことが明らかになったことを受けて、急遽開催されました。



イスラエル製ドローン ヘロンMK II

2024年12月20日の時点では、北海道、九州、四国を中心に8

空港20港湾が「特定利用空港・港湾」に指定され、本州では福井県の敦賀港のみが指定されていますが、2023年当初候補に挙がった38施設のうち22施設は「国の説明不足」「ミサイル攻撃の目標になる」などの懸念から早急な合意が見送られ、半年、一年が経過したのちに28施設の指定に留まっているものです。

学習会では「なぜ白浜なのか?」などの声上がり、極めて異例な速さで事が進められていることに、地元の皆さんは疑問と不安を抱いています。

南紀白浜空港ではいま、川崎重工業によって、自衛隊が導入を考えているイスラエル製ドローンの実証試験が行われています。



訴える日本共産党
の清水ただしさん

433th 23 宣伝行動 (南森町)

2月の23宣伝は21日(金)の12時半から、南森町の交差点(天神橋商店街の入り口)で行いました。

弁士は、大教組・中川さん、母親連絡会・岸上さん、日本共産党・清水さんに務めていただき、5団体8名が参加しました。

今回から、23宣伝は各常任幹事団体の事務所近くで、場所を変えて行うことを始め、3月は21日(金)12時半から、自治労連担当で、2月と同じ南森町の交差点(天神橋商店街の入り口)で行いますので、お間違えなく、ご参加ください。



沖縄のたたかいに連帯する歌をうたい続けている 「ちばりよ～沖縄合唱団」が 初めてのコンサートを開催

大阪のうたごえ協議会加盟団体の”ちばりよ～沖縄合唱団”は2015年大阪安保破棄実行委員会の沖縄連帯ツアーに参加したメンバーが、沖縄の人々の闘いに触発され、「希望のみちへ」という曲を創作したのをきっかけにサークルを作り、2016年大阪のうたごえ協議会や合唱団が主催した沖縄連帯ツアーに参加したメンバーが合流して誕生した合唱団です。

以降、毎年沖縄を訪れ伊江島、高江、南部戦跡を巡り、辺野古に座り込み、その時々思いを詩や曲に込めて17曲もの創作曲を創ってきました。また、沖縄知事選の応援や沖縄のうたごえ協議会の演奏会に出演するなど現地の人々との交流も深めています。

辺野古テント前でコンサート(2019年)を開催したことはありますが、満を持し本拠地大阪でのファーストコンサートを2025年2月16日クレオ大阪で開催しました。

私達が沖縄に足を運んで作った創作曲、関西沖縄の集い”がじまるの会”のエイサー、そして創作曲を組み合わせ沖縄戦から現在の辺野古新基地建設の実

態を語りと共に伝える合唱構成を演奏しました。380席の会場に満席近い入場者があり、



「もっと沖縄に関心を持たないとあかんと思った」などの感想を多く頂き、沖縄の問題をよく知らなかった人々にも伝える事ができました。また、稲嶺進さん(元名護市長)がプログラムに、「本土のマスコミが伝えない沖縄の現実を歌声で届けるまさしく『歌の大使』です」という嬉しいメッセージをくださいました。

私達は歌う事で伝え広げる運動ですが、沖縄の実情をもっともっと多くの人々に知ってもらい考えるきっかけになればと願っています。

大阪うたごえ協議会・ちばりよ～沖縄合唱団
高砂保子

*団体や地域の催しなどで歌う機会があれば出向いています。お声かけください。

連絡先：立川孝信 (090-6058-5652)



団体・地域の取り組みをお寄せください。お待ちしております。

《当面の日程》

3月19日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00～
21日(金) 大阪安保23定例宣伝
12:30～13:00
南森町交差点 (自治労連担当)

4月 4日(金) 沖縄現地行動 (~6日)
9日(水) 近畿安保会議 13:30
安保事務所
10日(木) 機関紙発行準備作業&事務局会議
16日(水) 大阪安保常任幹事会 10:00～

4月23日(水) 大阪安保23定例宣伝
12:30～13:00
上六交差点南東角 (大教組担当)

大阪安保総会

・とき / 4月25日(金)
18:30～20:30
・会場 / 新婦人府本部
会議室

